

令和2年度 県立石岡特別支援学校 自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>◆一人一人の学びを大切にしている学校 ◆安全・安心で互いを大切に思う学校 ◆地域のよさを大切にしている学校</p>	<p>達成状況および評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない</p>			
<p>昨年度の成果と課題</p>		<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>		<p>達成状況</p>
<p>・定期的な安全点検を計画し、児童生徒が安心して学習や生活できる教育環境の整備に努めている。事故等の未然防止の観点からの校内体制整備及び教育環境の整備を図る必要がある。</p>		<p>A 安全・安心で温かな教育環境づくり</p>	<p>①児童生徒が安心して学習や生活できる教育環境の整備 ②全学年での「道徳」の授業を通じた相手を思いやる豊かな心の育成</p>		
<p>・専門家の助言を得ながら、各教科(教科等を合わせた指導)の指導及びそれらと関した自立活動の指導の在り方について、計画的に校内の研修を行い、教職員の専門性の向上に努めている。児童生徒の実態把握のほか、授業デザインに係る教員の専門性を高めるための研究体制を構築していく必要がある。</p>		<p>B 一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくり</p>	<p>③ICTを積極的に活用した学習支援の工夫等による生活に結び付いた確かな学力の定着 ④自立活動の充実(専門家と連携した事例検討,教科等の学習との関連)</p>		
<p>・地域と協働した授業づくりを行い、地域とのつながりや本校への理解啓発が図れるようにしている。地場産業や地域の人材活用について検討し、地域に根ざした学習活動が展開できるようにする必要がある。</p>		<p>C 地域資源の有効活用と地域に根ざした教育の推進</p>	<p>⑤地場産業と共同した授業づくりと地域との交流の推進 ⑥地域の自然や公共施設等を有効活用した健やかな心や体の育成(自然体験や自然散策等)</p>		
<p>・小・中・高等学校等の教職員を対象に本校と協働した授業研究会を行い、授業について協議する機会を設けている。幼児教育施設や高等学校等との連携を深めるため、本校の教育活動や地域支援の方向性等について引き続き理解啓発を図る必要がある。</p>		<p>D センターの機能をいかした地域の特別支援教育の充実</p>	<p>⑦幼児教育施設や小・中・高等学校への巡回相談を通じた地域の子供たちへの支援の充実 ⑧学校公開や研修会を通じた特別支援教育に関する情報の積極的な発信</p>		
<p>項目</p>	<p>具体的目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>該当項目</p>	<p>評価</p>	<p>課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)</p>
	<p>円滑な学校行事の計画、運営と的確な学校全体のスケジュールの管理、運用に努める。</p>	<p>ICT活用推進部と連携して、Teams,イントラネットを全職員が活用できるようにすることによって、情報伝達や共通理解を円滑かつ確実にできるようにする。</p>	<p>A-① B-③</p>		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
教務	特色あるカリキュラムマネジメントに努める。(道徳, ICT, 作業学習での地域資源活用)	カリキュラムマネジメント推進委員会を学期2回開催することで, カリキュラムについて年間を通じて検討できるようにする。	A-①② B-③④ C-⑤⑥			
	開かれた学校づくりの推進と校内の教育活動計画可視化の充実を図る。	地域支援部や地域連携推進部と連携して定期的に本校の取り組みについて情報発信を行い, 理解啓発を進めていくとともに, 文化芸術活動推進係と連携して掲示コーナーの場所を確保し, 掲示計画を再確認し周知徹底を図る。	D-⑧			
教科書・図書	教科用図書の採択に関する必要な事務処理を円滑に行う。	次年度の教科用図書採択に向けたスケジュールについて全職員に周知するとともに, 教科用図書選定協議会・選定委員会の計画と実施を行う。	A-①②			
	教育活動での教科用図書の活用と図書館利用の推進を図る。	児童生徒向けに, 学期一回程度の図書館だよりを発行したり, 新規購入図書の紹介について, 教員向けにインターネットにアップしたりし, 情報発信をする。	A-①②			
	児童生徒が使いやすい学校図書館にするため, 環境を整える。	電子化での蔵書管理をし, 定期的に本の整理を行う。	A-①②			

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
庶務 表簿		校内ネットワークを活用し、諸帳簿様式の情報共有を行う。	データベースを有効に活用し、記入例や様式の周知を行い、円滑な作成が行えるようにする。	A-①② B-③		
		年間の作成スケジュールをもとに、円滑な諸帳簿の作成ができるようにする。	諸帳簿の年間作成スケジュールを提示し、見直しをもって作成と提出が行えるようにする。	A-①② B-③		
		掲示物を活用し、情報提供を行う。	掲示物を職員向け、児童生徒向け等に分けて精選して見やすく掲示する。	B-③		
教務部		基本研修の手引に従い、初任者、2年次、中堅前期・後期の研修について、計画的に実施する。	計画的な実施に向け、初任者、2年次、中堅研修の研修日を事前に調整し、研修時間を確保する。	A-① A-② B-③ B-④		
	基本 研修	若手教員の指導力向上のための情報提供や助言を行う。	授業デザイン部やICT推進部との連携を強化し、リモート教材やICT活用教材の情報提供や研修を行う。	A-① A-② B-③ B-④		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
現職 研修		若手教員のニーズに応じた研修の機会を確保する。	若手教員の課題や疑問に応じた研修となるよう, 若手教員の困り・悩みに耳を傾ける機会を設け, 適宜助言を行う。	A-① A-② B-③ B-④			
		児童生徒の相手を思いやる豊かな心の育成のための, 人権教育の研修を行う。	授業デザイン研究部と連携して「みんなで考える道徳」にすることで, 人権教育と道徳教育の研修を関連させながら深められるようにする。	A-① A-② B-④			
		研修会案内を分かりやすくし周知し, 教職員の研修の機会を増やす。	研修会案内等をイントラネットや掲示板の活用方法を工夫するなどして視覚的に分かりやすくする。	A-① A-② B-④			
文化芸術活動 推進		掲示位置の明確化と掲示内容や方法の工夫により学校掲示の充実を図る。	・校内の掲示計画を作成し各担当分掌部と連携を図り, 内容や更新の方法等について学期に1回見直し, 改善を行う。 ・ICT活用推進部児童生徒支援部, 道徳推進係と連携を図り, ディスプレイの活用, 掲示内容, 方法の検討をしていく。	D-⑧			
		文化芸術関連行事への参加の充実を図る。	音楽科, 図工・美術科, 各学部と連携を図り, 文化芸術活動の参加計画を作成し, 計画的に授業に取り入れることができるようにする。	C-⑤ D-⑧			

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
渉外		本部役員会及び各専門委員会の活動を計画・実施できるように保護者及び職員間で連携を図る。	本部役員会及び各専門委員会の年間計画を作成し, 分担や協議内容を確認する。	A-①		
		教育環境を整えるための奉仕作業等を計画・実施できるようにする。	教育環境係と連携して年間スケジュールを立て, 奉仕作業の準備及び実施をする。	A-①		
		PTA活動に関して保護者に向けた情報発信を行う。	ホームページや広報紙等でPTA活動に関する情報を発信する。	A-①		
校内研究推進		関連する校務分掌が連携し各校務分掌で計画した研修が実施できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 各校務分掌と連携を図り, 校内研修の年間計画を調整し, 研修を行う。 学部や学年単位での演習の機会を設け, 実態把握に基づく授業実践, 授業改善を行う。(自立活動個別シートの活用及び改善) 	A-① B-④		
		授業デザインに係る校内研修を推進し, 専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用推進部と連携し, ICT活用に関する校内研修を計画し, 児童生徒のICT活用の推進を図る。 地域支援部と連携し, 校内研修と地域の小・中・高等学校との合同の研修を実施する。 	B-④ D-⑧		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
授業デザイン研究部	道徳教育推進	学習指導要領を踏まえた道徳教育や「道徳」の授業を推進する。	学習指導要領解説の内容項目を月ごとにテーマとして設定して年間指導計画を立案するとともに、内容項目の解説の内容をイントラにて校内職員に周知する。	A-②			
		学校教育全体や学校全体で取り組む道徳教育を提案する。	道徳教育全体計画を立案, 周知し, 児童生徒支援部や保健安全部を中心とした関係する分掌と連携するとともに, 花いっぱい運動の運営や教科・領域等との関わりを踏まえた道徳教育についての整理を行う。	A-② C-⑥			
		相手を思いやる豊かなこころを育むための道徳教育や「道徳」の授業についての研修を推進する。	授業実践事例を蓄積するとともに, 各学部相互に授業を参観し合うことで授業改善を行う。	A-②			
	学習指導・支援	教育支援計画のデータベースの活用を推進し, プロフィール, 個別の教育支援計画, 個別の指導計画の作成と活用について共通理解を図る。	・ICT活用推進部と連携し, システムを運用するとともに, 各計画の記入例を提示し, ポイントを明確にする。 ・新学習指導要領及び教育課程を踏まえて計画した各部・学年の学習指導における学習活動や内容の系統性について, 教科・領域会を中心に整理し, 次年度の年間指導計画に活かす。	B-④			
		教科・領域会の運営の充実を図る。	教科・領域会において, 教材・教具シートを基に, 具体的な学習指導や支援方法についての話し合いを促すとともに, 地域支援部とも連携し, 教材や教具の運用に努める。	B-③④			

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
ICT活用推進部	ICT活用	児童生徒のICT活用を促し、合理的配慮による支援ならびに情報活用能力の育成を図る。	「ICTで新しい自己表現をしてみよう」の学習活動について、授業デザイン研究部と連携して、カリキュラム、スケジュール、指導および支援、評価(作品展示)などができるよう仕組みを整える。	B-③		
		職員のICT活用を促し、ICTリテラシーを高めながら、校務の効率化を図る。	各種情報システム(ファイルサーバー、イントラネット、Microsoft Teams、個別の指導計画等データベースシステム、サイネージシステム、画面転送システム、クラウドシステム)の活用方法および情報セキュリティについての知識や技術を伝え、効率的な校務を支援する。	B-③④ D-⑧		
		技術的な支援や共同事業を行い、各部や各校務分掌部、係等と連携する。	各種システムやアプリケーションの導入や利用の仕方などの技術的な支援を行うほか、各種システムの開発や研修会の協力、指導方法の研究等を共同で行う。	B-③④		
	校内ネットワーク整備	ICT機器やサービス等の整備、管理を行い、児童生徒が必要に応じて、いつでもICTを活用できるようにする。	児童生徒が利用するICT機器、ネットワーク、情報システム、ソフトウェア、ライセンス、アカウント、各種サービス等を整備、管理する。	B-③		
		校務用情報システムを開発、導入、管理して、校務の効率化を促進できるようにする。	各種情報システムなどを研究、開発、導入し、校務全体の効率化(ペーパーレス化、打ち合わせの簡素化と情報共有、在宅勤務対応等)となるよう、適切に運用および管理する。	B-③		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
		各種の機器やシステム等を提供して, 各部や各校務分掌部, 係等と連携した指導, 事業等を支援する。	連携した指導や事業に必要な機器やシステム等を開発, 準備する。	B-③			
地域支援部	特別支援教育巡回相談	地域の教職員への理解啓発, 情報提供, 研修協力を行い, 地域の児童生徒への支援の充実を図る。	他の校務分掌部や各学部と連携して, 中学校・高等学校教員対象研修会, ICT活用研修会, 授業デザイン合同研修会を開催したり要請に応じた研修協力を行ったりする。また, 巡回相談マニュアル, 教材教具シート, 参考資料を整備し活用することで, よりニーズに応じた組織だった相談支援を行う。	B-③④ D-⑦⑧			
		地域の学校のニーズを把握し, 情報の共有化を図る。	地域の学校へのアンケート依頼や研修会時のアンケート等から各校種の特別支援教育の現状と課題を把握し, 関係機関と共有する。	D-⑦⑧			
		本校のセンター的機能や特別支援教育に関する情報提供, 情報発信を行う。	センター的機能としての取り組みを視覚化して掲示したりホームページに掲載したり学校見学, 学校公開等で積極的な情報提供を行う。	D-⑦⑧			
		就学学齢児と保護者を対象とした情報提供を行う。	体験入学や教育相談の出席者人数に柔軟に対応できるように当日のスケジュールや内容を計画的に調整して実施する。	D-⑦⑧			

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
就学前教育連携	園や市教育委員会のニーズを把握し、情報の共有化を図る。	園や市教育委員会へのアンケート依頼や個別相談会時の聞き取り等から園や市教育委員会の現状と課題を把握し、関係機関と共有する。	D-⑦⑧			
	園や関係機関との連携を充実させ、計画的に就学後の支援に繋げる。	保育所管轄の市こども福祉課や市教育委員会と連携し、地域の幼児教育施設の教職員に向けて、個別相談会の実施(9月)と移行支援の訪問(3月)を行う。	D-⑦⑧			
交流学習	学校間交流において、本校についての理解啓発に努めるとともに、学校周辺の小・中学校等と共に有意義な学びとなるようにする。	・交流学習の実施にあたり、交流の意義や目的が達成できるよう交流の内容や場所等の検討を行う。 ・打ち合わせシートやアンケートを活用し、各部で交流及び共同学習のねらいや系統性の整理を行う。	A-① D-⑧			
	居住地校交流において、交流の目的について保護者、担任、そして相手校の担当者それぞれの理解を促し、有意義な活動となるようにする。	・保護者説明会を実施し、居住地校交流の目的や趣旨について説明を行う。 ・打ち合わせシートや実施報告書等を活用し、相手校の担当者と実施上の留意点や次回交流の内容について共有する。	A-① D-⑧			
地域連携推進部	地場産業と協働した授業づくりのために、連携先を開拓・拡充するとともに教育活動の実践の蓄積を図る。	・地場産業や地域の人材活用(学校支援サポーター)について開拓・拡充し、授業での活用について職員に情報提供をする。 ・各計画の取り組みについての内容をデータベース化し、職員間で周知できるようにし、学習において活用できるようにする。	C-⑤⑥			

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
地域連携	地域資源についての情報提供をし、地域資源を活用した学習活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用推進部の協力を得て、「地域資源マップ」を作成し、新しい情報が入った時にはその都度更新する。職員がいつでも情報共有できるようにする。 地域の特性を生かした地域資源の活用の在り方や学習内容について検討する。 	C-⑤⑥			
	教育月間における学校公開の際に、本校の地域との取り組みについて情報発信をし、理解・啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 図工、美術(ICT活用)の作品や作業班のオリジナル製品等の展示、本校の取組についてのパネル展示等を行い、地域の方々に情報発信する。 教務係や地域支援部、授業デザイン部、ICT活用推進部と連携し、児童生徒の活動の様子や本校の取組等魅力ある内容を計画し、地域の方々への広報活動(回覧板)を作成する。 	D-⑧			
児童生徒支援	各部と連携をしながらISHITOKU BOOKを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 法令を踏まえ、他校の資料を参考にしながら本校に適した内容のものを作成する。 学校生活の基盤となるルールや緊急時の対応などについて、各部と連携しながら児童生徒に分かりやすいものを作成する。 	A-①②			
	進んで挨拶ができる、相手を思いやる行動ができる児童生徒の育成に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> マナーアップ運動やありがとう掲示板の活用により、積極的に挨拶をしたり、感謝の気持ちや自尊感情をもったりすることができるようにする。(マナーアップ運動は毎月実施、ありがとう掲示板は学部ごとに募集期間を設定して実施) いじめに関するアンケートやチェックリストの活用により、自分の行動を振り返り、思いやりのある行動ができるようにする。(いじめに関するアンケートは学期に1度、チェックリストは2カ月に1度行う) 	A-①			
	児童生徒に関する情報の整理と早期発見、早期対応を図り、多方面から児童生徒の支援について考えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用係と連携をしながら児童生徒の問題行動等についての情報整理をし、必要に応じてケース会や校内支援会議を実施し、早期対応ができるようにする。 学部会や職員会議で、児童生徒の問題行動等についての情報を共有し、様々な視点から児童生徒を支援できるようにする。 	A-①			

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
児童生徒支援部	特別活動	異学年との交流活動のグループや年間計画を作成し、運営をする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒同士の交流がしやすいグループ構成ができるよう、各部と連携し、活動内容や計画を作成する。 年間の活動計画や職員の打ち合わせの時間を設定し、円滑に活動ができるようにする。 	A-①		
		地域とのつながりがもてるような児童生徒会の活動を企画をする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒会での話し合いを通し、児童生徒が主体となる活動を設定する。 地域連携係と連携を図り、地域の団体や企業などと連絡をとりながら、地域とつながりのある活動内容を設定する。 	A-① C-⑤		
通学支援		安全にスクールバスを運行できるように、バス会社との連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡シートを用いて、号車担当職員が乗務員と情報交換をすることで、管理職および保護者と共通理解を図り、迅速に対応ができるようにする。 年3回乗務員研修を行い、児童生徒の対応についての共通理解を図る。 	A-①		
		自主通学生、自力通学生の安全意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 通学状況確認シートを用いて、自主自力通学生の通学状況を確認し、保護者と情報共有をする。(毎月1回) 自主・自力通学生を対象とした安全指導を行う。(各学期1回)併せて、状況に応じた適切な行動等について、生徒に提示する。 	C-⑤		
		本校の進路指導について多くの関係機関へ理解啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関訪問や外部機関等の協議会に積極的に参加し、リーフレットや作業製品を活用して本校の進路指導についての説明をし、周知を図る。 地域支援部と連携し、地域の中学校・高等学校の教員への進路に関する授業公開や説明会を実施し、特別支援学校の進路指導の理解を図る。 	C-⑤		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
進路・移行支援部	進路指導	将来の生活を見据えた進路学習・進路指導の充実を図り, 自己選択・自己決定に生かせるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までのキャリア教育についての学習や必要な力について系統表にまとめ, 職員に周知する。 ・卒業後の生活を意識した進路学習を実施するとともに, その取組を学部懇談会などで保護者に情報発信する。 	B-③ C-⑤		
		保護者や職員への進路に関する情報提供の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場開拓で得た情報をリストにして全職員で共有を図る。 ・保護者のニーズを把握した上で, 最新情報の福祉事業所マップの作成や進路だよりの発行し, ニーズに応じた情報提供を保護者や職員に行う。 	B-③ C-⑤		
	移行支援(卒業後支援)	進路先や関係機関との連携の強化を図る。	学校公開などの授業参観日や校内作業実習の事業所公開日に相談支援事業所などの関係機関を対象に進路に関する情報交換会を行う。	C-⑤ D-⑧		
		進路先への円滑な移行支援を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに職員に移行支援について説明するとともに学期に1回, 学部会で移行支援に必要な内容を伝達し, 保護者にも説明していく。 ・移行支援の書式について, 活用しやすい書式の検討を行う。 	C-⑤		
		卒業後の充実した生活のための支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の移行先訪問や電話連絡をして現状把握をする とともに, 関係機関や進路先と連携を密にし, 卒業生の課題や問題に対応をする。 ・進路学習会において卒業生から話を聞く機会を設けるとともに卒業生の様子の情報収集をし, 生徒や職員に発信する。 	C-⑤		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
保健 衛生		児童生徒が進んで健康づくりに取り組む意欲と態度を育成する。	正しい知識を習得するために、ICTを活用し、運動や健康習慣を日々の生活に無理なく組み込めるような教材や情報の提示をする。	A-① C-⑥		
		保護者や関係機関と連携し、正確な情報を得たり環境を整えたりすることで、事故防止に努める。	・保護者や関係機関から得た情報は、保健室を中心として関係する教職員全員で共有できる体制づくりをする。 ・保健室で対応したけがを集計し、傾向を分析し、学部や学年、教育環境整備係と連携して予防策を考え、全教職員に周知する。	A-①		
		緊急時の対応に関する研修で正しい知識を得た上で訓練を行うことで、職員の危機管理意識を高める。	・配慮を要する児童生徒への個別対応訓練と全ての児童生徒に起こりうること(けが、熱中症、窒息、嘔吐下痢)への対応訓練に分け、時期と周知方法を工夫して行う。	A-①		
	食育 推進	児童生徒の実態を把握し、摂食機能に応じた食形態を提供し、安全に摂食機能の向上を図る。	・摂食機能や食事指導の研修会を2回実施し、医療相談等での専門家の助言のもと、安全に留意した給食指導を実施する。	A-① B-④		
保健 安	食育	家庭と学校、医療機関が連携し、個々の児童生徒の食物アレルギーに関する正確な情報を把握し、安全性を確保して給食を提供する。	・アレルギーを含む料理について家庭と学校が相互に確認し、複数の教員でアレルギーのチェックを行う。	A-①		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
安全部	推進	望ましい食習慣を身に付け、健康的な生活を営むことができる児童生徒を育成する。	・食に関する指導の全体計画を作成し、栄養教諭が担任と連携して食に関する指導を行ったり、教材・教具の使い方等を提示をしたりする。	B-④			
	防災安全	児童生徒が危険を察知し、自ら安全に身を守る態度を育成する。	・児童生徒が正しい知識を身に付けるために、各教科・領域や特別活動での防災に関する学習を行えるよう学習内容表の作成をしたり、教材や防災ブックの活用法を提示したりする。	A-①			
		教職員や保護者の防災に対する意識の向上を目指し、家庭や地域と連携して訓練や研修を行う。	・教職員の研修として、災害伝言ダイヤル演習や放水訓練、垂直式避難袋体験、防火扉確認・訓練等を行う。 ・家庭との連携として、非常食体験や引き渡し訓練を行う。 地域との連携として、石岡シェイクアウト訓練を行う。	A-① C-⑥			
	教育環境整備	身近な環境に関心をもち、身の回りの環境(学校)を大切にしようとする児童生徒を育成する。	毎月第3週金曜日を愛校作業日を設定し、教職員は児童生徒と一緒に清掃活動を行う。 ・道徳教育推進係や農園芸班と連携し、プランターの整備や設置を行う。 ・地域連携推進部と連携してクリーンウォーク等を計画し、実施する。	A-①			
児童生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるように、教室環境の整備や保全、管理を行う。		・校内危険個所の確認をし、整理整頓の方法や機能的で生活しやすい教室環境設定の仕方などを提示する。 ・職員による安全点検の体制を整え、毎月複数の教員で確実に点検を行い、報告し、改善を行う。	A-① C-⑥				

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
小学部	身近な生活の安全や防災について知るとともに、基本的生活習慣の定着をめざし、友達と仲良くし、助け合う心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や交通安全教室を生活単元学習等と有機的に関連させていくことで、安全意識を高めていけるようにしていくとともに、昨年度の研修を生かして日常生活の指導の系統性を意識して指導に当たれるようにする。 ・道徳教育推進係と連携をもちながら、道徳の学習形態や学習内容について検討し実践する。 	A-①②		
	家庭との連携を密にし、一人一人のニーズや発達段階に応じた学習指導・支援に努め、日常生活に必要な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業デザイン研究部と連携をもちながら、授業づくりやICT活用についての研修を行い、授業実践に生かす。 ・家庭との連携を取りながら、一人一人のニーズや実態を適切に把握し、児童の実態にあった各教科、自立活動の学習内容や支援を工夫する。 	B-③④		
	地域資源を活用した体験的な学習や地域の人々との交流をとおして、健やかな心と体を育む。	地域連携推進部と連携をもちながら、地域の情報を把握し、児童の実態等を考慮しながら、積極的に地域資源を活用する場を設ける。	C-⑤⑥		
	地域の幼児教育施設や小学校等との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をとおして、特別支援教育の理解・啓発を図る。	地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習、学校公開や合同研修会を実施し、地域の幼児教育施設や小学校職員、保護者等のニーズに応じた情報を提供する。	D-⑦⑧		
	安全に生活するための基本的なルールや約束を知るとともに、基本的生活習慣を身に付け、友達と一緒に過ごすことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下の歩行や室内での過ごし方など、学校生活において安全に過ごす基本的なルールや約束を場面ごとに分けて、実演しながら学習を進める。 ・毎日の生活の中で、生活場面に応じた写真カードや具体物などを提示し、自分から取り組めるような言葉掛けを行う。 ・友達とのかかわりを重視した活動や、友達と一緒に過ごす楽しさや安心感を体験できる内容を取り入れる。 	A-①②		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
小学部	1年	児童一人一人の実態や学習生活上の課題から目標を設定し、日常生活に必要な力や学習に取り組む姿勢を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 進んで活動に取り組めるよう見本や写真を提示したり、取り組みの様子を称賛したりし、分かりやすく達成感の得られる学習活動を設定する。 児童の実態把握をし、学習や生活の課題を明らかにした上で目標や手立てを具体的に示し、教員間で共通理解を図りながら教科指導や自立活動を充実させる。 	B-③④		
		様々な学習場面で体を動かす楽しさを知り、体力の向上を図る。	地域の自然や環境を生かした活動や遊び、自立活動、体育など、教師や友達、または地域の方々と一緒に体を動かす機会を設け、楽しみながら体を動かす経験ができるようにする。	C-⑤⑥		
		体験入学や学校公開をとおして、特別支援教育への理解を広げる。	地域支援部と連携をもちながら体験入学や体験学習、学校公開を行い、学習や生活の様子を伝える。	D-⑦⑧		
小学部	2年	安全に生活するための基本的なルールを意識するとともに、より適切な基本的な生活習慣を身に付け、友達と仲良く過ごすことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 校外歩行や室内での過ごし方など、学校生活において安全に過ごす基本的ルールを場面ごとに実演しながら伝える。 基本的な生活習慣におけるより適切な行い方について、実際の場面ごとに取り上げるようにする。 友達とのかかわりを重視した活動を取り入れ、協力し合う場面を設ける。 	A-①②		
		児童一人一人の実態や学習生活上の課題から目標を設定し、興味関心をもって活動に取り組もうとすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 活動に対する見通しがもちやすいよう、写真やイラスト、具体物を提示するなど、授業構成を工夫する。 児童の実態を十分に把握し、教員間や保護者との共通理解を図り、各教科や自立活動の目標設定を行う。 	B-③④		
		様々な場面での体験学習をとおし、活動の楽しさを知るとともに、体力の向上を図る。	地域の自然や環境を生かした活動や、トレーニング、体育、遊びなどにおいて、伸び伸びと体を動かせる機会を確保する。	C-⑤⑥		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
		体験入学や学校見学等とおして、特別支援教育に対する理解を広げる。	・地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習を行い、授業を公開することで学習の様子を伝えるようにする。	D-⑦⑧		
小学部	3年	児童が安心して学習に取り組めるよう、安全な教育環境の整備に努め、道徳の授業を通して友達を思いやる豊かな心を育てる。	・児童の個々の優位性に配慮して、絵カードや写真などの視覚的な情報等を活用し、児童が安心して活動できるよう工夫をする。 ・道徳で友達に関する内容を扱うとともに、友達とかかわる場を多く設定する。	A-①②		
		家庭と密に連携を図り、個々のニーズや実態に応じた学習支援に努め、日常生活に必要な確かな学力の定着を図る。	・RPDCAサイクルに基づいた授業実践・評価を定期的に行い、視覚情報を活用するなど児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・保護者との共通理解を図り、アセスメントを通して児童の個々の実態を的確に把握して、各教科や自立活動の目標を設定し実践する。	B-③④		
		地域の豊かな自然や公共施設を有効に活用し、地域に根ざした授業を取り入れ、地域資源と接することで健やかな心と体を育む。	地域資源マップを活用し、地域の公共施設等を積極的に利用するとともに、自然体験等ができる場面を設定する。	C-⑤⑥		
		体験学習や学校公開等の機会をとおして、特別支援教育の理解・啓発に努める。	児童が学習に集中できるよう教室内の環境を整え、保護者や来校者に本校の取り組みや、児童の姿を学年だより等で情報発信する。	D-⑦⑧		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
小学部	4年	安全に生活するための決まりを知り指示に従って適切な行動ができるようにするとともに, 児童がお互いの活躍する姿を称賛, 応援できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室や避難訓練などを通して, 身の回りの生活の安全や交通安全・防災に関する知識を視覚的な情報を提示し学ぶ機会を設定する。 友達同士でかかわり合う場を多く設定したり, 積極的に授業に取り組む姿勢を称賛したりすることで, 友達を意識し応援し合える雰囲気づくりを行う。 	A-①②		
		家庭との共通理解を図り, 一人一人の実態に応じた教材教具の工夫に努めながら, 日常生活に必要な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連絡を密に行い, 社会生活に必要な力を身に付けるための教材教具の工夫(ICT教材の活用を含む)をする。 個々の実態を把握し, 指導の仕方等について専門家からの意見も参考にしながら, 各教科や自立活動の目標を設定し実践する。 	B-③④		
		地域の豊かな自然や公共施設を活用した体験的な活動を通して, 健やかな心と体を育む。	地域の自然に触れる体験的な活動を多く設定し, 周辺施設等との連携や交流の機会を設ける。	C-⑤⑥		
		体験学習や学校公開, 保護者へのお便り等を通して, 特別支援教育の理解・啓発に努める。	学年だよりなどの掲示物の内容や掲示方法を工夫し, 保護者や来校者に学校の情報を分かりやすく発信できるようにする。	D-⑦⑧		
		集団生活や時間を意識した生活習慣を養うとともに, 主体的に行動しようとする態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活でのルールや時計の読み方を工夫して提示し分かりやすく伝えることで, 安心して活動に取り組めるようにする。 保護者との連携や実態把握を的確に行い, 道徳等の学習形態や内容について検討し, 個に応じた基本的な生活習慣が身に付けられるようにする。 	A-①②		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
小学部	5年	保護者や専門家との情報交換を行い、一人一人のニーズに応じた教材教具の開発に努め、学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握を適切に行うとともに、保護者の要望や専門家の助言を参考に教材教具(ICT機器含む)の開発や使用の際の工夫と改善を行い、個に応じた支援を行う。 ・保護者との連絡を密にとり、実態を適切に把握し、各教科や自立活動の目標を設定する。 	B-③④		
		自然との触れ合いや地域の公共施設などを活用した体験的な学習を行い、心身の調和的な発達を目指す。	地域の自然に触れる機会を多く設定するとともに、周辺施設等との連携を図り、活動内容を工夫することで、体験活動が充実できるようにする。	C-⑤⑥		
		体験学習や学校公開の機会をとおして、掲示物等を充実させ特別支援教育の理解・啓発に努める。	充実した体験学習が行えるよう、活動内容についてねらいの焦点化を図り実施するとともに、学校公開の内容や掲示物を充実させ来校者に学年や学校の取り組みや情報を分かりやすく発信する。	D-⑦⑧		
小学	6年	よりよい基本的生活習慣の確立を目指すとともに、安全に関する知識やルール、マナーを守る態度、友達と協力し助け合う心を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣について、家庭の協力を得たり、栄養教諭や養護教諭と連携したりしながら支援する。 ・避難訓練や運動会、修学旅行等の学校行事と生活単元学習、道徳、特別活動等に関連付けて学習していくとともに、主体的に考え行動できる場面を設定していく。 	A-①②		
		児童の教育的ニーズを家庭と共通理解し、個に応じた指導の充実を目指すとともに、教材教具や支援方法の工夫により、学習や経験した内容の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・RPDCAサイクルに基づいた授業改善を行い、ICT機器を有効に活用する等、個に応じた指導の充実を目指して支援する。 ・保護者と連絡を密に取りながら実態を確認し、自立活動、道徳の単元・題材等に応じて、グループ学習や個別学習等、より効果的な学習形態をとりながら支援する。 	B-③④		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
学部		学校周辺や石岡市の自然や地場産業等についての学習・体験を通して、地域理解を図るとともに、心身の調和的発達を目指す。	地域の自然における体験的な学習や石岡市に関連する学習内容を設定することで、身近で働く人達との交流が図れるようにする。	C-⑤⑥		
		中学部との連携を行い情報を共有していくとともに、学習内容を分かりやすく可視化していくことで特別支援教育の理解・啓発に努める。	中学部と連携しながら、中学部体験を実施することでスムーズな移行が図れるようにする。各教科における学習内容が分かるよう、掲示物の内容や掲示方法を工夫し、学習経過や制作過程が分かるような写真等も掲示することで、本校の取り組みを分かりやすく伝えられるようにする。	D-⑦⑧		
中学部		身近な生活の安全や防災に理解を深めるとともに、基本的な生活習慣の確立を図り、相手のことを思いやり、進んで親切にする心を育てる。	安全・防災に関する学習場面を設定するとともに、整理整頓された教室環境等の整備を行う。「道徳」の授業をとおして、自ら考えたり、主体的に判断して行動したりする場面を多く設定し、友達を思いやり、親切にしようとする気持ちの育成を図る。	A-①②		
		小学部(小学校)までに培った学力をもとに、日常生活の中で活用できる学力の定着を図る。	自立活動や国語・数学の時間をとおして、生徒の実態を的確に把握し、学習目標に応じ、より個に応じた指導形態や指導体制を工夫し、日常生活に必要とされる基礎的・基本的な能力の育成を図る。液晶モニターやタブレット等、ICT機器を効果的に活用しながら、学習したことが日常生活に活用していけるよう実践的な学習場面を設定していく。	B-③④		
		地域の社会見学や地場産業を生かした体験活動や地域交流をとおして、働くことへの関心を高める。	校外学習をとおして、地域の職場見学や体験を実施し、身近で働く人達との交流を図る。作業学習をとおして、働きたいという意識を高められるような状況を設定した上で、地場産業を活かしながら働くために必要な基礎的・基本的能力の育成を図る。	C-⑤⑥		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
		地域の小学校や中学校等との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をとおして、特別支援教育の理解・啓発を図る。	いつでも公開できるような学習環境を整備しながら、地域の方や近隣の学校等へ積極的に情報を発信し、理解・啓発をしていく。 学習の様子を伝えるために、必要かつ精選された掲示物を提示する。	D-⑦⑧		
中学部	1年	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた学習内容や手立てを工夫し、基本的な生活習慣の定着を図るとともに、相手のことを思いやる気持ちを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 着替えや掃除の仕方、清潔、友達とのかかわり方等について授業で計画的に取り上げるとともに、日常的に継続して指導していく。 道徳の授業において、人を思いやる気持ちを育てられるよう、生徒の生活場面や興味・関心に応じた学習課題を設定するとともに、日常生活に即した具体的な活動に取り組むようにする。 	A-①②		
		これまでに培った学力を中学部生活の中で活用しながら確実なものにするともに、ICT機器を活用しながら日常生活で必要とされる基礎的・基本的な学力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間をとおして生徒一人一人の障害特性や発達段階を把握し、日常生活で必要とされる学習課題を設定するとともに、教材や提示の仕方などの支援方法について教師間で共通理解を図り、一貫した指導や評価を行う。 学習したことを日常生活で活用できるよう、授業において具体的・実践的な場面を想定・設定していく。また、ICT機器を効果的に活用していく。 	B-③④		
		様々な体験活動をおとして、働くことについて関心をもてるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習をおとして、地域の公共施設や商業施設、公共交通機関等を利用・見学し、地域を知るとともに事後学習を充実させていく。 作業学習や職業・家庭の授業をおとして、作業に必要な基礎的・基本的な力を身に付けるとともに、働くことへの関心をもてるよう、継続的に取り組んでいく。 	C-⑤⑥		
		学習成果の掲示や学習環境の整備を行い、情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が見通しをもって落ち着いて学習できるよう、掲示板や板書等を含めた教室環境を整える。 美術や総合的な学習の時間等、様々な学習の様子が伝わるよう、生徒が授業で作成した作品を、一カ月に一度程度、廊下へ掲示していく。 	D-⑦⑧		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
中学部	2年	身近な生活における安全・防災の理解に努めるとともに、基本的な生活習慣やマナーの確立を目指し、中学生としての自覚を高めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 生活単元学習等で安全・防災について取り上げるとともに、整理整頓の観点から清掃活動を充実し、繰り返し指導することで、基本的な生活習慣の確立に努める。 道徳の授業において、友達との関わり方や言葉遣いを学習し、相手を意識した気持ちを育む活動に継続的に取り組む。また、着替え等、日常生活で学習した内容を保護者に伝え、内容を共有することで、基本的な生活習慣の定着を図る。 	A-①②		
		生徒の障害の程度や発達段階を踏まえ、身につけた力を日常生活で活用できるよう、ICT機器を活用し、生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動や国語・数学の時間をとおして、一人一人の障害特性や発達段階を教師間で共有し、個別の指導計画を十分に活用しながら、課題に対する共通理解を高め、基礎的・基本的な学習の確実な定着を図っていく。 日常生活で必要とされる学習内容を教科毎精選し、ICT機器を活用しながらより効果的な授業を展開し支援していく。また、生徒がタブレット等のICT機器を活用する機会を積極的に設定していく。 	B-①②		
		様々な体験活動をとおして、働くことへの意欲や技能の向上を図り、社会参加の基礎的スキルを身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習をとおして、学校近辺の職場見学や体験をすることで、仕事について考える機会を設定するとともに、見学先の方々と交流する場を設ける。 作業学習において、昨年度学んだことを基にあいさつや返事、報告など働くために必要な内容を教師間で共通理解をしていく。 	C-⑤⑥		
		保護者と連携を図りながら、学習環境の整備及び情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や学年だより等で、随時学習の様子を伝えていく。また、保護者と一つ一つの成長を個別面談等で確認し合うとともに、生徒の自己肯定感を高められるよう、特に頑張ったことや良かったことを毎回伝えるようにする。 教室や廊下の掲示板を充実させ、日々の学習の様子が伝わるように整備していく。 	D-⑦⑧		
		安全な生活や基本的な生活習慣等、具体的な活動を通じた指導を行いながら、中学部最高学年として生徒自らが主体的に取り組もうとする力や人への思いやり、親切的な態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じたマナーやルール、身だしなみ、場に応じた適切な言動・態度などに関する内容を、個々の実態や課題に応じながら、重点的・継続的に学習に組み込んでいく。 自己肯定感を高められるような言葉かけを工夫し、できるだけ生徒の生活場面や興味・関心に即した学習課題を設定する。 	A-①②		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
中学部	3年	個々の指導計画に基づいた適切な支援・評価を行い, ICT機器を利用しながら生徒の学習意欲を高め, 高等部や社会生活に向けた日常生活の中で活用できる学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動や国語・数学の時間をとおして, 生徒一人一人の実態や課題を的確に把握し, より個に応じた適切な支援を行っていく。 タブレット等のICT機器を効果的に活用しながら, 成就感や達成感を味わえるよう, 生活に即した活動を取り入れるとともに, 成功体験ができる場面を多く取り入れていく。 	B-③④		
		様々な体験活動や地域社会での活動を通して, 働くことへの関心を高め, 将来に向けた個々の必要な力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や行事等において, 体験的な活動を働くことと関連付けた学習の場の設定と, 自己の個性を發揮しながら他者と協力して物事に取り組めるような活動内容を設定する。 保護者や地域, 関係機関と連携を図りながら将来の生活や働くことについて考える機会を設ける。 	C-⑤⑥		
		掲示物等, 情報発信の場を積極的に設け, 生徒の学習状況や取り組んでいる様子, 良さを伝えていくことで特別支援教育の理解を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> 学年だよりや学年掲示板を有効活用し, 随時学習の様子を発信していく。また, 自己肯定感を高められるよう, 学習成果発表の場や集会での司会進行等, 発表の機会を多く設け, 頑張ったことを伝えていく。 生徒たちの日々の学習の取り組みを伝えるために, 学習の様子等を定期的に掲示板に掲示していく。 	D-⑦⑧		
高等部		自ら安全に生活するために必要な事柄を考え行動できる力を身に付けるとともに, 働くことや公共の場でのルールが定着できるための知識と心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を安心して過ごすため日々の生活において, 生徒の状況把握とともに教師間での共通理解と保護者への適切な報告を実践し信頼関係を構築する。各教科や自立活動の授業をとおして, 自ら考え行動する場面を想定した授業展開を実践し支援する。 安全・安心に関する内容(知識の観点)について, 道徳の授業をとおして身に付け自ら行動できるようにする。 	A-①②		
		中学部(中学校)までに培った学力をもとに, 卒業後の生活を想定した学習内容を精選し, 社会生活で必要な生活力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 中学部(中学校)段階での実践を踏まえ, 一人一人の実態に合わせた授業展開を行い, 卒業後の生活に生かすことのできる能力を育てるようにする。 学習活動では, 思考力, 判断力を活用する場面を多くし, 卒業後の生活にも結びつけられるようにする。 	B-③④		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)	
同守部	現場実習や地域交流等とおして、自立と社会参加に必要な技能や態度の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 社会規範やルールを理解し、適切な対人関係を築くとともに自立活動や職業的な学習においても集団活動を円滑に進め調整力やコミュニケーション能力を育てるようにする。 現場実習等保護者や関係機関と連携を図りながらで今必要とされている力を育てるようにする。 	C-⑤⑥			
	地域の中学校や高等学校との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をおして特別支援教育の理解・啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校間交流や学校公開等の場面を積極的に生かし、地域の方々との交流する機会を増やすことで、人とかかわる力を育てるようにする。 校内実習等での経験・体験を生かし現場実習では、進路先で必要とされる能力の育成を図る。 	D-⑦⑧			
高等部	1年	学校生活における自らの役割や安全な生活に必要な行動を考え、個々が主体的に活動に参加しようとする力や態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 安全な学校生活が送れるよう、日々の環境設定を充実させる方策を学年会で定期的に確認し、教員間で意識を高めていく。一人一人の実態に応じた適切なコミュニケーション手段を身に付け、生徒同士が互いに理解を深めることができるようにする。 新しい集団における所属意識をもち、自らの役割を果たしたり友達と協力したりして安全な生活が確保できるよう適切な活動や支援の場面を設定する。 	A-①②		
		個々の実態に応じた課題を学習活動に反映し、ICT教材を学習活動に効果的に取り入れ、将来の社会生活に必要な基礎的な学力や体力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の実態を把握し個々に対して具体的な目標を設定し、学習形態や学習内容を工夫することで、課題を達成できるようにする。 各学習活動において効果的にICTを活用し、わかりやすく興味・関心を高められる授業を展開する。 	B-③④		
		校内実習や地域交流等とおして、将来の自立や社会参加に必要な知識や技能、態度の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動をおして社会規範やルールを学習するとともに、個々の将来の生活やそれに必要な基礎的な学力について、職員間や家庭等との情報共有や連携を図りながら適切な指導支援を行う。 自立と社会参加へ向けた基礎的な学力の指導内容を精選し、将来の生活を想定した学習内容を扱う。 	C-⑤⑥		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
		様々な人や集団とのかかわりをおして、場に応じたコミュニケーションの能力や好ましい人間関係の育成に必要な力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士で協力し、助け合いながら活動する場を設定し、集団の一員であることの自覚を促すとともに、それぞれが実態に応じた多様なコミュニケーションを獲得できるように支援する。 ・地域団体との共同学習を実施し、所属集団や他者に対する理解を深めたり、自ら相手にかかわろうとしたりすることができるよう学習活動や支援を行う。 	D-⑦⑧		
高等部	2年	生徒の実態に応じて、安全に生活する力や規律を守る力を身に付けるとともに、主体的に活動する中で相手を思いやる豊かな心や態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や安全な学校生活の確保について職員間で共有し、生徒が中心となって教室環境を整える機会を設定し、集団生活のルールやその意義を確認できるよう支援をする。 ・道徳の授業を中心に、学年学級等の集団生活における自他の役割や、それぞれの気持ちについて確認し、よりよい人間関係について考える場面を設定する。また、その成果を共有し称賛する。 	A-①②		
		生徒の実態に応じた学習活動を設定し、ICT教材を積極的に取り入れ、将来の社会生活に必要なとなる学力や体力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態や家庭生活等を的確に把握し、個々に必要な目標を設定し、自立活動の時間を展開することで、卒業後に必要な力を身に付け、進路選択できるようにする。 ・各教科学習等における個々の目標の達成に向けて、効果的にICT教材を活用する。 	B-③④		
		実習や地域交流等をおして、将来の自立や社会参加に必要な知識や技能、態度の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動をおして、社会規範やルールについて学習するとともに、個々の将来の生活に必要な自己判断や自己表現をする力について、職員間や家庭等との情報共有に努め、連携しながら支援する。 ・生徒の主体的な学習活動の充実に向けて、生徒と職員との相互評価を行い、自己の成果や課題を促しつつ整理し、今後の具多的な行動に繋げるよう支援する。 	C-⑤⑥		
		様々な人との関わりをおして、自己理解や他者理解を促し、場に応じたコミュニケーション力や好ましい人間関係の育成に必要な力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外において他者と関わる機会を設定し、事前に相互の立場や関わり方について考えたり、教師のロールプレイで確認したりして、生徒が見通しをもちながら実践できるよう指導支援を行う。 ・学校生活において、他者とのコミュニケーションや協力を必要とする活動場面を設定し、相互理解や信頼関係を深めることができるよう指導支援を行う。 	D-⑦⑧		

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価		課題及び次年度への改善策(●課題, △改善策)
高等部	3年	生徒の実態や適性に応じて、安全に生活できる力や社会人として必要な力を身に付けるとともに、好ましい人間関係を意識した行動や相手を思いやる豊かな心を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室環境づくりに生徒の積極的な参加を促し、一人一人が協力し、助け合いながら活動することで、相互に理解し合い、安全を意識した行動で、安心して学校生活を送ることができるようにする。 ・道徳の時間などを通して、個々生徒の気持ちの動きや感情の変化を大切に受け止めることで、自分を取り環境への対応の仕方を学び、適切なコミュニケーション手段を身に付けることができるようにする。 	A-①②			
		生徒個々の実態に応じた課題を設定し、ICT機器や教材を積極的に活用しながら、卒業後の生活に必要な基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態を的確に把握して具体的な目標を設定し、ICT機器や教材を効果的に活用した授業を展開することで、課題を達成できるようにする。 ・個々の生徒の特性を把握し、自立活動の時間の指導をとおして、家庭生活や社会生活に必要な力を培い、進路を選択し、決定できるようにする。 	B-③④			
		実習や交流学习をとおして、自立と社会参加に必要な知識や技能、態度の育成を図り、社会の一員として協働して生活する力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の実態に即した教材の選定や学習活動の工夫に努め、将来の生活を想定し、自立と社会参加へ向け、目的意識をもって意欲的・主体的に取り組み、自発性を引き出す支援を行うようにする。 ・生徒が自ら考え、率先して行動できるような言葉掛けや環境の整備に努め、できた喜びを自信につなげていくよう、積極的な行動を大いに称賛する。 	C-⑤⑥			
		様々な人とかかわりをとおして、時と場面に応じたコミュニケーション力を身につけ、他者との適切な関わりの育成を図るとともに、助け合い、協力し合って活動する態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の様々な他者とかかわる機会を設け、積極的な活動をとおして、相互理解を深め、信頼関係を築くことができるようにする。 ・友達と協力し、助け合いながら活動する場を設定し、それぞれが実態に応じた様々なコミュニケーションを取りながら適切にかかわり、集団の一員であることを自覚できるようにする。 	D-⑦⑧			